令和６年度　福生市立福生第二小学校　学校だより　https://fussa-2e.hs.fussa.school

令和６年8月２８日
8・9月号　No.463
発行責任者
校長 西村　学徳
所在地　福生市熊川623

戦争と平和について考える

校長　西村　学徳

長い夏休みが終わり、本日より２学期が始まりました。今年の夏も猛暑となりましたが、子供たちはどんな夏休みを過ごしたのでしょうか。７月下旬の福生七夕まつりや町会の夏祭りには、私も少し行くことができました。その中で、二小の子供たちがお祭りを楽しんでいる姿や、二小で私が担任をしていた時の子供たちが中学生や高校生になって、お囃子やお祭りのお手伝い等、活躍している姿を見ることができたのは、何よりも嬉しい出来事でした。

さて、私のことになりますが、この夏、戦争と平和について改めて考える夏となりました。８月上旬に初めて長崎県に行く機会があり、その際に原爆資料館や平和記念公園を訪れることができました。原爆にまつわる建物や資料を見て回り、戦争の悲惨さ、平和の尊さを強く感じました。８月 18 日には、福生市民会館で行われた福生市主催の「平和のつどい～市民が語り継ぐ昭和～」の講演会に参加し、講師の方の戦争当時の体験談や市内の高校生の意見発表を聞きました。戦争を体験された方の生の言葉や、高校生が戦争や平和について真剣に向き合う姿は、やはり心に響くものがありました。また、主催者挨拶での「戦争と平和について若い世代に伝えていくのは、大人の責務です」の言葉に、身の引き締まる思いがしました。

私の幼い頃を振り返ると、夏休みは毎年、北九州の祖父母の家に長く滞在し、朝は祖父の横に座って戦争体験者の話のＴＶ番組をよく見ていた記憶があります。戦争体験者の祖父が、もしかしたら幼い私に見せたいと思って、いつもそのような番組をつけていたのかもしれません。一方、私は３人の中高生の親でもありますが、これまで、家庭内で戦争や平和について子供たちに語ったり、話し合ったりしたことは、正直あまりなかったように思います。今の子供たちは、戦争や平和についてどのくらい興味や関心をもっていて、そして、どのような思いや考えをもっているのでしょうか。二小の子供たちにも、ぜひ聞いてみたいなと思っているところです。

長崎の原爆資料館の展示の中に次のような言葉がありました。「二度とこの苦しみを世界の誰にも体験させたくない。まずは『知ること』から始めてみましょう。そして、周りの人と話をしてみましょう。一人ひとりが『自分事』ととらえ、考えていくことが重要なのです。（一部抜粋）」

学校でも、戦争や平和を題材にした学習が各教科や道徳等であります。これからの世の中を創造していく子供たちが、平和な世の中を築いていけるように、戦争や平和について「まずは知ること、そして話合い、考えること」を大切にした指導をしていければと思っています。２学期もどうぞよろしくお願いします。